

【実践報告】

2006 年度 総合学習「ことばのプロの技を学ぶ」の報告

松崎 史周

1. はじめに

稿者の勤務校・長野清泉女学院高校（以下「本校」と称す）に総合的な学習の時間（以下「総合学習」と略す）が導入されて5年が経過した。この5年間、本校は独自の総合学習を求めて、学習の形態を様々に模索してきた。導入時（2003年度）は、生徒が自ら追究したいテーマを決め、書物を用いて調べ、発表を行うという形の「調べ学習」を行っていたが、2005年度からは、教師が設定したトピックを生徒が選び、トピックの特性に応じて「調べ学習」か「体験学習」かで進めていく形となった。さらに、昨年度（2007年度）からは「自分を鍛えるプログラム」と称して、様々な活動を通して対人関係を学ぶ形を採っている¹⁾。

稿者は2005・2006年度に1年生の総合学習を担当し、「ことばのプロの技を学ぼう」と題して、言葉の働きや効果、コミュニケーションの技術について生徒と学んできた。授業は前期と後期に分けて同一の内容で行ったが、本稿では2006年度後期の授業を取り上げ、実際の授業の紹介と簡単な考察を行うこととする。

2. 授業設定の趣旨と授業計画

本校には、幼児教育系の上級学校へ進学し、幼稚園教諭や保育士を目指す「幼児教育系列」と、看護医療系の上級学校へ進学し、看護師や医療技師を目指す「看護医療系列」が設置されている。これらの系列を選択する生徒は、それぞれの分野に興味・関心が高く、進路実現に向けた意志も強い。また、ここ数年の傾向として、小・中学校期に人間関係上のトラブルに深く傷つき、その経験からカウンセラーなどの心理支援職を目指す生徒も出てきた。このような状況を見て、稿者はかねてから言葉やコミュニケーションについて生徒と学び合う機会を求めてきたが、「国語総合」や「現代文」などの国語科の科目は授業数に制約があったり、入試に対応した授業を求められ

たりして、年1・2回程度の単発的な実践しかできなかった。そこで、今回の総合学習を良い機会と捉え、かねてからの構想をもとに授業を構成することとした。

総合学習がトピック選択制になってから、学期の初めのガイダンスで担当者から各トピックの説明がなされることとなった。稿者はそこでトピックの紹介を兼ねて次のような資料を生徒に示した。

【ガイダンス資料：学習トピック紹介】

言葉に興味があるということは、人に興味があるということ。

よく「言葉は人なり」と言われます。言葉は決して口先の技術だけで成り立つものではありません。他人を思い、他人を気遣う気持ちがあってこそ成り立つものです。この授業では、広告の言葉やカウンセラーの話し方、保育士や看護師の言葉を取り上げて、「ことばのプロの技」に触れ、言葉やコミュニケーションの奥深さを学んでいきましょう。

ガイダンス後、毎年数名の生徒から「先生の総合を受けるよ」と声を掛けられる。保育士や看護師を目指す生徒たちが中心だが、進路希望に関わらず言葉に興味を持っている生徒も少なくない。自身が設定したトピックに興味を持ってもらい、意欲のある生徒たちと自分の専門分野で学べることは、教師として非常に喜ばしいことである。

学期当初に過去の実践を踏まえて指導計画を作成したが、実際には授業を進めながら計画を修正しており、以下に挙げる指導計画も修正を加えたものである。

【学習指導計画】

〈授業内容〉	〈テーマ〉
第1回：授業ガイダンス、追究したい課題を考える ………	言葉と自分の関わり
第2回：広告の言葉を比較する ……………	言葉の印象と戦略
第3回：嬉しい言葉と嫌な言葉 ……………	言葉の印象と心構え
第4回：幼稚園の先生の仕事や言葉の技を知る ……………	子どもにかける言葉
第5回：保健の先生の仕事や言葉の技を知る ……………	悩みに寄り添う言葉
第6回：看護師の仕事や言葉の技を知る ……………	患者にかける言葉
第7回：共感的傾聴に挑戦 ……………	コミュニケーションの技術
第8回：課題研究の仕方を学ぶ ……………	自分の興味を探る
第9回：プレゼンテーションに挑戦する ……………	相手を納得させる発表
第10-11回：研究発表会（発表を聞き、知識を広げる） …	他者の考えを受け止め、考える

指導計画は大きく課題演習期と調べ学習期に分けられる。課題学習期（第1-7回）は稿者が用意した課題に取り組んでもらい、それを通して言葉の働きや使い方について学ぶものである。第4-6回の授業では、その職業の方のインタビューを聞き、本授業のテーマでもある「プロの技」を学ぶこととした。調べ学習期（第8-11回）は言葉に関して興味のある事柄について調べ、その成果を発表するものである。課題学習で

学んだ事柄をさらに深める生徒もいれば、もともと興味を持っていた事柄を調べた生徒もいて、発表は様々なテーマのものが並び、バラエティーに富んだものとなった。

3. 実践報告と考察

本稿は 2006 年度後期の実践内容を報告していくものだが、生徒の作品や感想に関しては稿者が着目したものを挙げている。

第 1 回授業：ガイダンス・追究したい課題を考える

2006 年度「国語に関する世論調査」によると、言葉や言葉の使い方に関心がある人は 7 割台後半にも上り、言葉に対する興味は総じて高いことが分かる。また、どのような点に興味があるかの質問については、「日常の言葉遣いや話し方」が 73.7%、「敬語の使い方」が 65.5%と高く²⁾、話し方や聞き方、敬語を扱った書物が多数出版されているのも頷ける。本トピックを選択した生徒は他の生徒よりも言葉に対する興味が高いと思われるが、生徒は言葉のどのような点に興味を持っているのだろうか。第 1 回目の授業は授業ガイダンスを行うとともに、言葉に関して追究してみたい課題を書いてもらって、授業の進め方を考える材料にすることとした。

まず授業計画表（指導計画表と同じ）を示しながら、学習の目標と内容を簡単に説明した。その中で、言葉を考え学ぶ際には「テクニック」として考えるのではなく、どのような想いや気遣いの上に成り立つものなのかを考えるようにと話し、自分の使っている言葉に意識的になることの必要性を意識づけた。説明の後、授業を通して自分が追究してみたい課題を記入させた。代表的なものを幾つか挙げる。

【追究したい課題】

- ① 周りの人と普段会話をしていく中で、相手に不快な思いをさせない言葉の使い方を知りたい。会話をする相手よっての言葉遣いや口調の違いを使い分けられるようになりたい。
- ② コピーライターの仕事に興味があるので、どうやったら格好良くてインパクトのある言葉が作れるのか知りたいです。また、私もたまに相談を受けることがあるのですが、どうすれば相手を追いつめずに、しっかりと相手の話を聞くことができるか知りたいです。
- ③ 普段使っている言葉がどんな感じで人の心に響いているのか知りたい。それを知った上で、これからの言葉遣いに気をつけていけたらいいと思う。カウンセラーに興味があるので、カウンセラーの言葉がどのように人に届き、響くのか考えてみたい。

- ④ 私は小中学校で保健の先生ととても仲良くなり、先生と話すためだけにいつも保健室に行っていました。先生方の優しく包み込んでくれる雰囲気、私の気持ちをきっと分かってくれるという安心感がとても好きでした。それはきっと言葉のニュアンスがもたらしてくれたものだと思います。また、話す時の表情やしぐさも大きく影響してくるので、この講座で言葉や表情、しぐさの影響する力を知りたいです。
- ⑤ 将来の夢が幼稚園の先生なので先生方の言葉の技を是非知りたいと思っています。また、幼稚園の先生だけでなく、看護師など様々な職業のプロの技を学んで、自分の夢に役立てたいと思っています。言葉は何となく心理的な感じがしますが、人の心を変えたり読み取ったりして、相手を包んであげられるような人になりたいと思っています。

これらのコメントを読むと、生徒が言葉のどのような面に興味を抱いているのかが分かる。①の生徒はコミュニケーションに難しさを感じたことがあったのか、友好的に会話を進めるための言葉の使い方に興味を持っている。②の生徒は友人から相談を持ちかけられることが多いようで、相談を受ける立場として相手に寄り添った聴き方に興味を持っている。また、③～⑤の生徒は自分の言葉が他人に与える影響や言葉の持っている癒しの力に興味を持っており、その興味をもとに、③・⑤の生徒はカウンセラーや幼稚園教諭、そして②の生徒はコピーライターといった言葉を専門的に扱う職業に興味を持っている。このように生徒の興味は、日常会話での話し方など実用的なこと、幼稚園教諭の話し方など専門的なことと、この2つに大きく分けられた。

授業の最後には、稿者の方から各生徒の興味に合うよう授業内容に配慮することを約束するとともに、生徒にも自分の興味と重ね合わせて積極的に学習に取り組もうと呼びかけた。

第2回授業：広告の分析

テレビCM、新聞や雑誌の広告、電車やバスの中吊り広告、駅のホームや街に並ぶ大型広告、街頭で配られるチラシ、DM（ダイレクトメール）など、私たちの身の回りには数え切れないほどの広告が存在するが、その中には私たちの意識を捕らえて放さない広告がある。そのような広告にはどのような言葉の工夫がなされているのだろうか。第2回の授業は広告を取り上げ、広告に見られる言葉の分析を行うこととした。

今回取り上げた広告は、女性向け雑誌に掲載されていた2種のシャンプーの広告である。これらの広告を印刷した資料を配付し、2種の広告を見た印象を3段階で評価させ、その理由を書かせた。

【シャンプーA：モッズ・ヘア】



〔肯定的意見〕

- ・ 「一段上の美」という言葉にインパクトがあったから。
- ・ 誰でも分かる英単語が大きく出ていて伝えたいことが分かりやすいから。
- ・ 「もっと美しい髪」という言葉、「モッズの美学」の「美学」という言葉がいいから。

〔否定的意見〕

- ・ 字が小さく細かくて見にくいから。
- ・ 「一段上の美に、こだわれ。」と言われてもそうは思わないから。

【シャンプーB：ヴィダルサスーン】



〔肯定的意見〕

- ・ 「一日中まとまる髪が続く」という言葉がクセ毛の人には良い印象だと思うから。
- ・ 「いつでも小悪魔できちゃう髪」という言葉がいいと思ったから。

〔否定的意見〕

- ・ 「小悪魔」がどんな感じが分からなかったから。
- ・ 「いつでも小悪魔できちゃう髪」という言葉が気に入らないから。

記入後は生徒に発表をさせ、生徒の着目点を確認しながら、広告の言葉に見られる工夫を分析していった。まず、Aは「一段上の美に、こだわれ。」というコピーに着目した。文字を大きくして「一段上」を強調しながら「こだわれ」と命令形にすることで、このシャンプーを使って他人よりも美しい髪を手に入れようというメッセージが伝わってくる。また、モデルの美しい髪をダイヤモンドに見立てたり、その美しい髪（女性）に多額の懸賞金を掛けると設定したりするのも、女性に魅力を感じさせるものとなっている。一方のBもコピーに着目し、「いつでも小悪魔できちゃう髪。」

の「小悪魔」という言葉が、可愛くて男を誑かす魔性をイメージさせ、女性に魅力を感じさせるものとなっている。また、「できちゃう」とテシマウ形を使うことで、このシャンプーを使えば自然と男にもてる状態になるというメッセージが伝わってくると分析した³⁾。

以上、生徒の着目点に合わせて稿者が独断的に行った分析だが、生徒は非常に興味を持って聞いてくれた。授業の終わりに感想を書いてもらったが、多くの生徒が広告の言葉の奥深さと言葉の面白さに気付いてくれたようだった。

【授業の感想】

- ① キャッチフレーズには前から興味があったが、今日の授業のように詳しく考えたことはなかったのととてもおもしろかった。ヴィダルのキャッチフレーズは、たった15文字の中にしつかりとした意味が込められていて、すごいと感心した。特に「できちゃう」という言葉に「自然ともてるようになる」という意味が込められているのには、なるほどなと納得した。
- ② 今までキャッチフレーズは見るだけで終わっていたけど、今日の授業のように分析してみると、そのキャッチフレーズには沢山の想いやメッセージが詰まっていた。1文字違うだけで消費者の持つイメージも変わってしまうので、1つひとつの言葉はとても大事なんだと思った。それに、消費者の目に止まらせるためには、他社よりもイメージの強いものを考えないといけないので、コピーライターはすごいと思った。
- ③ たった1つの言葉だけで、イメージするものが違ってきて、そのイメージしたものや感じ取ったもので、私は品物を買いたいとか、別に買わなくていいと思ってしまうから、1つひとつの言葉が持っている力はすごいと思った。今日見た広告のように、普段何気なく見ている広告の中に、一言だけで私たちを惹き付けるものにはどのようなものがあるのか、少し気にして広告を見てみたいと思った。

記入後には何人かの生徒に発表してもらい、皆で共有するとともに、たった一語の言葉が大きく人を左右すること、言葉を使う際には十分気を付けなくてはならないことを生徒に伝えてまとめとした。

第3回授業：嬉しい言葉・嫌な言葉

言葉は人を嬉しくも悲しくもするものである。日本経済新聞のコラムには、小学6年生に「嬉しい言葉」と「嫌な言葉」を考えさせる授業が紹介されているが、それによると「がんばれ」「ありがとう」「大丈夫？」などが「嬉しい言葉」の上位に挙がり、「嫌な言葉」では「死ね」「消えろ」「きもい」「あっちいけ」「むかつく」などが多かったという。「チビ」「デブ」など身体に関する悪口を挙げる生徒も多く、

1人で30もの「嫌な言葉」を書き連ねた生徒もいたそうで、全体的に見ると「嫌な言葉」の方が圧倒的に多く挙がったということだ⁴⁾。

前回の授業では広告の分析を通して言葉の持つ力を学んだが、本トピックを選択した生徒たちはどのような言葉を嬉しいと感じ、どのような言葉を嫌だと感じているのだろうか。第3回目の授業は、嬉しい言葉と嫌な言葉を取り上げ、普段の話し方に良い心構えを持てるようにしていった。

まず、これまでに人に言われて「嬉しかった言葉」と「嫌だった言葉」を挙げて、その理由を書かせた。代表的な言葉とその理由を挙げる。

【嬉しかった言葉とその理由】

- ・ 「ありがとう」

自分の行いを認めてもらえた気がするから。気持ちが伝わってきて嬉しかった。

なんだか自分がやった事を認められたようで嬉しい。何度言われてもいい。

言った時も言われた時もどっちも嬉しい。何かを感謝された時、やって良かったと思える。

- ・ 「がんばって！」「大丈夫？ 一緒にがんばろう」

できないことがあって落ち込んでいた時に言われてすごく嬉しかった。

いろいろと落ち込んでいる時や部活でうまくいかなかった時に言われて心強かった。

- ・ 「前より上手くなったね」「頑張って良くなったよ！」

部活で入部した時よりプレーが上手くなったと友達や先輩に言われたこと。

だんだんできるようになって褒められると、さらに頑張ろうとやる気が出てくる。

【嫌だった言葉とその理由】

- ・ 「キモイ」

周囲からそう思われていたのかと思い、すごく傷つきました。

同じ人間に対して「キモイ」とは‘なんだ’と思う。

- ・ 「いらない」

言われた事はないけど、人に対して使うべきではない言葉だと思うから。

- ・ 「チビ」「ニキビマン」

今は特に気にならないけど小学生の時は言われるのが嫌だった。

顔にニキビがあって自分もすごく気にしていたのに、こう言われてすごく悲しかった。

生徒が挙げた言葉は個人的事情に関わるものが多かったため、授業では記入者が特定されないよう配慮しながら、意見が多かった上記の言葉を挙げて、それぞれの言葉の特徴を見ていった。嬉しい言葉では「ありがとう」や「がんばろう」などが挙がり、相手の行為に感謝したり相手を励ましたりする言葉が受け手を喜ばすことが分かる。

一方、嫌な言葉では「キモイ」「いない」や「チビ」などが挙がり、相手の容姿や存在を否定する言葉が受け手を嫌な気分に行している。特に「キモイ」は原語の持つ‘気持ち悪い’という意味合いが希薄になったのか、最近では軽い気持ちで使われることが多く、このことが使い手の意図に反して受け手を傷つける結果になっている。たった一つの言葉が他人を嬉しくも嫌な気分にもする。前回の授業で広告の言葉から学んだことを振り返りながら、言葉には強い力があることを十分自覚をし、言葉を使う際には受け手にどう響くのか考えてから使うべきだと生徒に説明して授業のまとめとした。

第4回授業：幼稚園教諭の仕事と言葉の技

本校は保育専門職に高い就職率を誇る清泉女学院短期大学を姉妹校に持っており、幼稚園教諭・保育士への就職を希望して入学してくる生徒も多い。年度によっても違いはあるが、この授業の受講者の1/3程度は保育専門職希望者となっている。保護者と共に子どもの人間形成に大きく関わる保育者は、子どもの想いを受け止め、子どもとの信頼関係を築き、子どもの育ちを支援していくコミュニケーション能力が求められる。そこで授業では、稿者がビデオ録画した幼稚園の様子を観て、幼稚園教諭の仕事はどのようなものか紹介するとともに、どのように子どもたちと接し、どのように話すべきか考えながら、保育者のコミュニケーションの技を学ぶこととした。

ビデオは幼稚園の半日を辿りながら、本校実習生と幼稚園教師の様子が録画されていて、生徒の身の丈に合った技術からベテランの技術まで学ぶことができる。ビデオを観る際にはメモを取るように指示し、視聴後は感想と心がけを書かせた。生徒のほとんどが用紙一杯に書いてくれ、豊かな学びがあったことが感じられた。生徒の感想の代表的なものは次の通りである。

【ビデオを観た感想】

- ① 幼稚園の先生は子ども達とよくコミュニケーションが取れていると思った。例えば、子ども達とお話しをする時に、先生は分かりやすい言葉を使ってゆっくりと説明していたし、子ども達の言葉を敏感に受け止めながら説明していて、一人ひとりの事を考えながら説明しているのだと思った。プールで子ども達が泳いでいる場面では、実習生の先生が「がんばれ！」などと声をかけてあげると、子ども達はとてもがんばって泳ぐので、先生のかける言葉は大事なんだと思った。また、お片づけの時、自分から机を片づけ始めた数人の子ども達に、先生が「わあ！ありがとうございます！」と一言かけるだけで、他の子ども達も寄ってきて手伝い始めていた。子ども達は先生の言葉をよく聞いているものだと感じた。また、実習生でも子ども達

に人気がある人は、何事にも積極的でノリがいいと思った。ビデオを観ただけでも、子どもとのコミュニケーションがよく取れている先生のところ子ども達は集まってくるのだということが分かった。

- ② ビデオを観てまず気がついたことは、幼稚園の先生が普通とは全く違った話し方をしているということでした。ゆっくりと分かりやすい言葉で丁寧に話していました。さらに、ただ口で話すだけでなく、表情も変化させて手や体を動かすことで、伝わりやすいように工夫していると思いました。また、一対一で会話をする時は、子どもの顔をのぞきこむようにしっかり見て話をしていました。子ども達が自分で気が付いて行動した時には「ありがとう」と声を掛け、他の子ども達のやる気を起こしていました。他にも、プールの時などとにかく声を掛けることを大事にしていると思いました。踊りの練習では、まず先生の方からリズムに合わせて声を出すことで、子ども達も踊りやすくなり一緒に声を出していました。歌う時にも口を大きく開けて、ピアノを弾きながらも、子どもを見ながら歌っていました。声だけでなく表情や手の動きを加えるだけで、こんなにも分かりやすい話し方になるので驚きました。

いずれの生徒も幼稚園教諭の話し方に着目し、分かりやすい言葉でゆっくり丁寧に話したり、表情を変えて手や体を動かして話したりすることの大切さを挙げている。また、机を片づけた子どもを誉めると他の子どもも手伝い始めたことに着目し、誉める言葉が子どものやる気を引き起こしていることを挙げている。授業の最後ではこれらの気づきを取り上げ紹介しながら、保育者の語りかけが子どもの言葉を引き出し、行動を起こすきっかけになっていることを説明し、子どもが耳を傾ける語りかけをするために、言葉遣いや話し方に心掛けを持つことが重要であると説明した。

第5回授業：保健室の先生の仕事と言葉の技

近年、心に悩みを抱える生徒が増加しており、本校でも保健室を利用する生徒は増加の傾向にある。このような状況の中、保健室の先生（養護教諭）は、怪我を負ったり具合が悪くなったりした生徒の手当てや全校生徒の健康管理・保健指導だけでなく、受験や進路、友人や教師との人間関係、家庭生活での問題などの悩みを抱えた生徒の相談を受けるといったカウンセラーの役割も担っている。利用者に寄り添い、その想いを受け止めて共に考えていくためには、話しやすい雰囲気を作り、相手の話を引き出すなどのコミュニケーション能力が求められる。そこで授業では、稿者が保健室の先生に行ったインタビュー録音を聞いて、養護教諭の仕事を紹介するとともに、悩みを抱える人の話をどのように聞き、どのように話していけばいいのかを考え、カウンセラーとしての保健室の先生の技を学ぶこととした。

前回の授業と同様、メモを取りながらインタビューを聞かせ、終了後に感想と心掛けを書かせた。何人もの生徒が前回よりも多く記入し、生徒にとって豊かな学びがあったようだ。代表的な感想を2つ挙げる。

【インタビューを聞いた感想】

- ① 先生のお話を聞いて、先生は生徒の怪我や熱だけを見ているのではなく、生徒のカウンセリングも行っていることを知りました。私も何度か保健室に行ったことがあるけど、いつも先生と一緒にいすに座って、目を見て話を聞いてくれました。少し緊張してなかなか深いところまで話しづらかったけど、接してもらうことによって緊張がほぐれ、いろいろと相談することができました。インタビューでもおっしゃっていたように、相手に寄り添って気持ちを共感して分かってあげることが大切だと分かりました。辛い気持ちを乗り越えるのは自分自身で、その気持ちを受け止めて、乗り越えられるように作ってあげるのが、カウンセラーの仕事だと知りました。同じ人間でも考えること感じることは皆違って、勉強や進路、友達などの人間関係、家族関係などの悩みを誰もが持っています。それを言葉で表現したり、相談に乗ってあげるなどして、互いに支え合うことが大事だと分かりました。
- ② 悩んでいる人の話を聞くことは、ただ内容や理由を聞いてあげるだけという感じがしていたけれど、今回インタビューをお聞きして、いきなり悩みそのものを聞き出すのではなく、その悩んでいる人の気持ちに寄り添ってあげることも解決に導く方法なのだと思います。相手の気持ちに寄り添って共感するのはきっと難しいことだと思うけれど、まず相手の気持ちになることが一番大事なのだと思います。もし、自分が他の人の悩みを聞くことがあったり、近くに悲しんでいる人がいたとき、先生のように相手の気持ちを考えて接して、悩みをちょっとでも解消できればいいなと思いました。だけど、人間関係はやっぱり難しいことなので、自分自身も日常生活の中で常に気をつけて、相手のことを気遣って生活できたらいいと思いました。

いずれの生徒も、相手に寄り添って共感することの大切さ、悩みを言葉で伝えたり相談に乗ったりして互いに支え合うことの大切さを挙げている。だが、これらのことは何も専門家のみが有する特殊な技術ではなく、心掛け次第では誰でも実行できることである。生徒たちの感想を見ると、今回のインタビューの内容は、人間関係で悩みやすい年齢だけに、ほとんどの生徒の共感を得たように感じられた。そこで、次の授業では看護師のインタビューを聞いて、相手に寄り添い相談に乗るために必要なコミュニケーション技術を学ぶこととした。

第6回授業：看護師の仕事と言葉の技

本校で幼稚園教諭とともに進路希望が多いのが看護師である。昨今の看護師不足から就職率が高いのも理由の一つかもしれないが、幼少期の入院体験から看護師に憧れを抱いたことも希望が多い理由である。少子高齢化の進行、疾病構造や患者の意識の変化により、近年の医療看護を取り巻く状況は大きく変化してきている。このような状況の中、看護師には高度な知識と技術の習得はもちろんのこと、患者を正確に観察しケアする判断力、患者を気遣い寄り添うコミュニケーション能力が求められている。そこで授業では、稿者が現役看護師に行ったインタビュー録音を聞いて、看護師の仕事はどのようなものか紹介するとともに、患者にどのような話し方や接し方をしたらいいのかを考え、看護コミュニケーションの技を学ぶこととした。

インタビューの聞き方や感想などの記入の仕方は前回の授業と同じである。代表的な感想を挙げる。

【インタビューを聞いた感想】

- ① 看護師の仕事にも色々あって、その中でも特に難病の方のお世話をすることは、とても大変だし、体力だけでなく精神力も必要なんだと思った。医者よりも身近な存在で、話しやすく相談されることが多いということは、患者に頼られているからだと思った。

私は看護師さんの話の中に出てきた「共感」と「傾聴」にとても感心した。患者の気持ちに共感することで、患者が自分のことを話してくれるというのは、とても良いことだと思った。傾聴もとても大事だと思った。話の内容をじっくり真剣に聞いて、患者の悩みの原因を突き止める。すごいなと思った。他にも、よく観察したり話しかけたりするそうだけど、そうしてもらおうと患者は嬉しいのかなと思った。

また、看護師さんが心掛けていることにも感心した。同じ患者でも、皆病気は違うし、皆性格も違うので、1人ひとりをちゃんと見てあげる看護師はとても尊敬できる。患者に敬意を持って接しているというのは、とても素晴らしいことだと思った。

- ② 看護師の仕事には、血圧を測ったり点滴をしたりする以外にも、リハビリの手伝いや患者の入浴の手伝いなど、いわゆるケアもあるのだということが分かった。そういう時間があるからか、医者に聞きづらくても、看護師なら聞きやすいという患者が多いのだと思う。看護師は患者が話しやすい雰囲気を自然と作っているのだと思った。また、そんな患者と医者の間を取り持っていることも、難しいことだけどすごいなと思った。

患者と接することの多い看護師は「共感」と「傾聴」が大切だということだ。患者の言葉・気持ちに共感することで、患者も安心するのだと思った。また、短い時間の中で「どんな気持ちなのか」「困ったことはあるか」など、患者の訴えをしっかりと聞くことが大切だとい

うことだ。なかなか話せない人でも、その人の表情を見て考えたり体調を考えたりして、よく見ることで分かる部分も出てくるといのは、毎日気に掛けてやっていないとできないことだなと思った。

患者を患者として見るのではなく、1人の人間としてどんな人か、家族からどう思われているのか、ということを知り、敬意を持って接する。これはどんな人でも心がければできることだと思うので、私も敬意を持って人と接するようにしたいと思った。

いずれの生徒も「共感」と「傾聴」の大切さを挙げてくれたが、この点に気付いてもらうことが今回の授業の最大の目標であった。日常のコミュニケーションにおいても、「共感」や「傾聴」を心掛けることで、互いに支え合える良好な人間関係を築くことができる。悩みに潰されることなく自分らしく生活していくためにも、「共感」や「傾聴」を心掛けてコミュニケーションをとることが大事であると説明して授業のまとめとした。

第7回授業：共感的傾聴の実践

前々回の保健室の先生と前回の看護師のインタビューに共通しているのは「共感」と「傾聴」であるが、それらを実現するためにはどのようなコミュニケーション技術が必要なのか。今回の授業では相手の話の聞き方に着目し、カウンセリング理論に基づいたコミュニケーション技術を学んでいくこととした。

まずは、カウンセリング理論に基づいて次のような聞き方の技術を説明した⁵⁾。

a. 話す人が話しやすい雰囲気を作る

話す人の話を聞く際に、横を向いたり時計を見たりしない。話す人がリラックスしていたら聴く人もリラックスし、話す人がかしこまっていたら聴く人もかしこまって聴くようにする。話す人の話をしっかりと聴いているという態度を示すようにする。

b. 適度にうなづき・相づちをする

「はい」「うん」「そう」などと言いながら頷いてみたり相づちしたりする。

c. 相手の気持ちをなぞる

「～なんだね」と相手の言葉を繰り返したり、「そうだね」「ああ、大変なんだね」「それはつらいね」と言ったりして相手の気持ちをなぞるようにする。

d. 相手の話を明確化する

「その時はどうだったの？」などと相手の気持ちに沿って質問して話を引き出したり、「～と思ったんだね」「つまり、こういうことなんだね」と話を明確化したりする。

次に、「話す人」「聞く人」「観察する人」に分かれて雑談を行い、聞き方の技術

を用いて相手の話を聞く練習を行うことにした。雑談は1回3分とし、役割は交代しあって行った。ただ、実際のカウンセリングではないので、話し手にはあまり深刻な内容は避けるよう指示した。だが、必然性もなく雑談をするのも難しいので、「最近困ったこと」「最近驚いたこと」「最近嬉しかったこと」とテーマを3つ挙げ、この中から話しやすいものを選ぶように勧めた。また、聞き手には「聞き方の技術」を使いながら話を聞くように指示し、観察者には聞き手がどのくらい「聞き方の技術」を使ったか、どのくらい話しやすい雰囲気を作ったか観察し評価するように指示した。

授業の最後に感想を書いてもらった。代表的な感想を2つ挙げる。

【聞き方の技術を実践した雑談の感想】

- ① 相談する人にとって話しやすい雰囲気を作ることは大切なことだと思った。そういう雰囲気がなければ、相談しにくくなってしまったり、相談してもだんだん悲しい気持ちになってしまったりと思う。今日の経験は、今後友達からの相談を受けた時に、とても役に立つと思うし、大人になってからも使えることなので、カウンセリングの技を忘れないでいたいと思う。
- ② 初めての人と会話をすること、思っていたよりも難しく思ったようにできない場面もあった。特に聞き手として相づちを打つことはできても、相手の気持ちをなぞることはなかなかできなかった。でも、質問することで会話が途切れることなく続けられたので、そこは良かったと思う。

雑談のテーマを与えたり、聞き方の技術を使わせたりしたとはいえ、初めてのメンバーで話をするのはかなり難しかったようである。話が盛り上がるグループもあったが、話が続かなくなるグループもあった。だが、相づちを打ったり話し手に質問したりすることで、話しやすい雰囲気が生まれることは分かってもらえたようである。今後、特に初対面の人と話をするなどの場合に、この技術を使ってみるといいと説明して授業のまとめとした。

第8回：課題研究の仕方を学ぶ

第1～7回の課題学習から得た言葉の学びに基づいて、夏期休業や冬期休業を挟むこの時期に、生徒が言葉に関して興味を抱いた事柄について自ら調べ、レポートにまとめたり発表したりしてもらったこととした。そこで、実際に調べ学習を始める前に、どのようにテーマを立て、どうやって調べればいいのかを説明した。

調べ学習のテーマについて事前に生徒に書かせたところ、「方言について」であったり「カウンセラーについて」であったりと非常に漠然としていて、どこの方言について調べたいのか、発音を調べたいか語彙を調べたいのか、カウンセラーの仕事内容

を調べたいのか、話し方などの技術を調べたいのかなど、できるだけテーマを絞って、作業をしやすくする必要があった。そこで、生徒が挙げた代表的なテーマを示しながら次のような例を挙げて、何を調べたいのか調べ学習のテーマを絞らせた。

【テーマの絞り方の例】

- 方言について → どの方言か（県・地方）、発音が単語か
- 幼稚園の先生について → 進学先や資格か、話し方の特徴か、仕事の内容か
- 若者言葉について → 若者言葉の特徴か、若者言葉を集めるのか

次に、絞ったテーマについて明らかにするために何を調べなければならないのか、自分が知らないことや分かっていることを挙げさせて、調べる事柄を明らかにした。その上で下のような図を示しながらインターネットを用いた調べ方を説明した。

【インターネットを用いた調べ方】

- ① 「Yahoo Japan」などの検索サイトを開く。



- ② ここに調べたいテーマをいくつかのキーワードに分けて打ち込み、「検索」をクリック。
- ③ 検索結果をいくつか開いてみて、役立つようなサイトを選んでみる。

須坂弁

まず、おらほの須坂にや、方言がいっぺーあるしない？
どんだけあるか、おめさん集めておくらい。須坂弁保存会

須坂弁一覧

須坂弁検定

須坂弁講座(ラジオ)

須坂弁投稿フォーム

須坂弁をご存知の方は、知っている須坂弁を教えてください。
須坂弁投稿フォームから送信してください。

掲載している須坂弁は、須坂の中でも、言う地域言わない地域があります。
須坂の一部でも言うものは掲載しています。

一覧 あ行 か行 さ行 た行 な行 は行 ま行 や行 ら行 わ行

須坂弁→和訳→関西弁訳

須坂弁	和訳	関西弁訳
礼する	お返しをする	お返しをする
凍(し)みる	凍る	凍る
～だっちゃ?	～だらうか?	～やるか?
～もんち	～の人達	～の人達
～だんかい?	～でしょう?	～やる?
～だこて	～ですよ	～やって
～だしなれい?	～だよな?	～やんなあ

須坂弁講座CDができました

(http://www.suzaka.ne.jp/dialect/)

- ④ 必要な情報を作業シートに書き写し、気づいたことや調べた感想を書き添える。

今回は書籍ではなくインターネットを用いて調べる方法を探したが、インターネットは特に監修を受けることなく誰でも発信できるため、時として誤った情報や無責任な情報が存在する。そのため、インターネットの情報は鵜呑みにすることなく、書籍などで確認することが重要と言われている。今回の調べ学習でも書籍も合わせて用いることを推奨しているが、知りたい情報が手に入りやすく、細かい情報まで紹介されていることから、情報の信憑性を自分で十分吟味するように心掛けさせてインターネットを用いることにした。

次に、調べて分かったことをどのようにまとめるかである。いくら新たに知った事柄でもインターネットや書籍の文章をそのまま写したのでは、調べて何が分かったのかははっきりとしない。そこで、ネットや書籍で必要な情報を見つけたら、次のような手順で抜き出し、作業シートに書きまとめていくように説明した。

【調べた事柄の書きまとめ方】

① 自分の調べ学習の目的を確認する

調べ学習の目的を確認しておかないと、調べる事柄、まとめる事柄がぼやけてしまう。

「何を知りたいか」調べ学習の目的を確認して、作業の方針をしっかりと持っておく。

(例) カウンセラーについて → カウンセラーに必要な話の聴き方について

言葉について → 若者の言葉の特徴について

② 調べる目的に沿った形でネットや書籍の情報を抜き出し、メモする

調べる目的に沿った情報だけを抜き出し、メモしていく。

(例)

調べ学習の目的：カウンセラーに必要な話の聴き方

↓

必要な情報：話の聴き方のポイントや注意点

↓

ネットや書籍から必要な情報を見つけてメモする

〈以下、省略〉

調べて分かった事柄は作業シートにまとめて書くこととし、長期休業明けにそのまとめを用いて発表を行うことを予告して授業を終了した。

第9回：プレゼンテーションに挑戦する

生徒には長期休業の間にインターネットを用いて自分の立てた課題について調べてもらい、その成果を提出してもらった。そこで次に、調べて分かった事柄をまとめ直

して、研究発表をしてもらったこととした。発表に際しては資料を配付することとし、この授業では発表資料の作り方を学んだ。

発表はレポートや作文と違って声を用いて相手に伝えるものである。声の言葉（音声）は発すると同時に消えていくもののため、聞き手に発表内容を十分理解してもらうためには、発表資料を用いたり図表やスライドを見せたりするなどして、音声と視角の双方から説明することが必要になってくる。発表資料といってもその形式は様々で、要点を箇条書きにただけのもの、図表を組み込んで説明したもの、ほとんど論文と変わらないものなどがあるが、この授業では発表の際の簡便性も考えて、「です・ます」調に直して読めばそのまま発表原稿になるものを作っていくこととした。

発表資料の構成は次のような例を挙げて説明した。

【発表資料の構成】

① なぜ調べようと思ったのか（調査の目的）

なぜそのことを調べたのか、何を知りたいと思ったかを簡単に説明する

何を使って調べたか（サイト・書籍の名称など）もここに書いておく

② 調べたこと（調査の内容）

調べたことを分かりやすく説明するような形で書いてまとめる

※ 例を挙げたり、項目別に分けたりする

書籍やHPに載っていた図表や絵、自分なりにイラストを書き入れると良い

③ 調べて分かったこと（調査の成果）

調べて分かったことを結論としてまとめ、今回調査を行った感想を書き、今後どのようなことを調べてみたいかを書く

最後に文字や記号の使い方などを注意して発表資料を作成させた。完成した発表資料は発表会に先立って印刷し、目次やイラストが入った表紙を加えて冊子にまとめた。また、落ち着いて発表できるようにと、事前に発表日と発表順を連絡しておき、内容をよく頭に入れ、声に出して発表の練習を行うように指示した。

第 10-11 回：研究発表会（発表を聞き、知識を広げる）

発表資料が整ったところで、いよいよ研究発表会を行うこととした。何人の生徒は稿者の指示に従って発表の練習を行って来てくれたが、発表するとなると緊張してしまい、声が小さかったり話すのが速くなったりしてしまった。だが、発表者の真剣さがよく伝わってきて、聞く側も自然とよく聞くようになって、発表会は非常に良いものとなった。生徒が発表した題目は以下の通りである。

【生徒の発表の題目】

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1. カウンセラーの仕事 | 9. 元気になれる詩 |
| 2. カウンセラーの仕事・言葉 | 10. 長野県の方言 |
| 3. 間違った言葉 | 11. どっちなの？ |
| 4. 心理カウンセラー | 12. どうなる 若者言葉 |
| 5. 方言について | 13. 長野の方言 |
| 6. 須坂弁について | 14. 長野弁 |
| 7. 大人語と若者ことば | 15. コピーライターになるためには |
| 8. 若者ことばとは | |

今回受講してくれた生徒は方言や若者言葉などの位相語を取り上げる生徒が多く、例年と違って幼稚園教諭や看護師といった専門職の仕事や言葉を取り上げる生徒は少なかった。生徒の発表を見ると、調べた事柄をただ列挙したのもあれば、自分なりに分類し考察を加えたものもあり、内容の深まりという点で差が出てしまった。聞き手から出された質問や意見を踏まえて、調べ直したり修正したりして、再度発表する機会をとりたかったが、半期という時間の制約からそれは実現できなかった。

ここで生徒の発表の中から稿者が注目したものを1つ取り上げることとする（次頁の発表資料を参照のこと）。この生徒は課題学習期から積極的に学習に取り組み、ビデオやインタビューを聞いた感想はいつも記入欄一杯まで書いてくれ、他の生徒には見られない気づきや発見を幾つも挙げてくれた。調べ学習では以前から興味があった「若者言葉」を調べたいと言っていたが、課題研究の仕方を学んでいく中で、単に若者言葉を調べて挙げるだけでなく、「大人語（大人の言葉）」と対比させてその違いをまとめていくこととなった。発表資料は「目的」「考察」「分かったこと」と項目ごとにまとめられていて非常に分かりやすく、「桃太郎」の一節を若者言葉と大人語に直して挙げてみたり、上手なイラストを挙げたりと、読んでいて楽しいものになっている。最後のまとめでは、若者言葉にも大人語と同様に、正面からではなく、ソフトに回り込んだ言葉を選んで、なるべく相手に不快を与えないようにする日本語独特の言葉の使い方が見られると指摘しており、調査や考察をより深く重ねていけば、より説得力のある「研究」になるのではないかと期待させるものとなった。

4. おわりに

以上、2006年度後期総合学習の実践内容を報告してきたが、最後に生徒が書いた「学習の振り返り」を幾つか挙げることにする。

【学習の振り返り】

- ① 毎回授業で、幼稚園の先生、カウンセラーや看護師の方々のお話を聞いて、どのお話にも人への思いやりや気遣いを感じられました。人と人とのコミュニケーションに言葉は欠かせないものなので、相手の気持ちになって言葉を選んで話すことはすごく大切だと感じました。私もこれから人と話す時には授業で学んだことを気をつけながら、楽しく話したり相談に乗ったりしたいと思いました。
- ② 資料を見て考えたり、録音したインタビューを聞いたりして、自分の知らなかったことをたくさん知ることができて、とても良かったと思います。私はカウンセラーの会話の進め方について調べてみましたが、普段私たちが友達としている会話とは全く違うことが分かりました。相談者が話しやすくなるように‘あいづち’や‘言葉の繰り返し’をしたり、質問をするような形で相談者を導いていることを、今回初めて知ることができました。また、相談者と一定の距離を保って会話するのも大事だと分かりました。
- ③ この授業を受けてみて、人間にとって言葉はとても大切な役割を果たしているのだと思いました。また、言葉にはいろいろな種類があり、場面や状況に応じて使い分けなくてはならないことも分かりました。私は間違った日本語について調べましたが、普段使っている言葉でも間違った言葉が多いことが分かりました。他のクラスの人の発表も共感できるものがたくさんありました。特に、若者言葉や方言が使われる心理を知ることができました。若者言葉が大人社会への反抗なんて考えたことがなかったし、長野には方言はないと思っていました。言葉についていろいろと知ることができて良かったと思います。

核家族化の進展や地域内での連携の希薄化、そして、携帯電話など情報機器の多機能化など社会状況の変化に伴って、世代や所属、考え方や価値観などが異なる他者とのコミュニケーションの機会が減少し、子どもたちのコミュニケーション能力が低下してきていると言われている。また、インターネットを用いて特定の人物に対する誹謗や中傷がなされたり、無責任な発言が匿名でなされたりと、インターネット上のコミュニケーション環境の悪化が子どもたちのコミュニケーション意識に悪影響を及ぼしている。こうした状況のなか、他者を尊重し気遣う意識に基づいてコミュニケーションを展開していく能力は今後とも不可欠なものとなってくるだろう。生徒が書いた学習の振り返りを見ると、言葉やコミュニケーションの諸相と技術を取り上げた本実

践が、生徒のコミュニケーション意識や能力の涵養に寄与しているのではないかと思
っている。

【注】

- 1) 「自分を鍛えるプログラム」（2007年度以降の総合学習）については別稿にて論じる。
- 2) 『平成18年度 国語に関する世論調査 情報化時代と漢字使用』pp. 3-7
- 3) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』（くろしお出版、pp. 254-255）では、テシマウ形に
〈完了〉と〈感慨〉の2つの用法を認めている。〈完了〉のテシマウ形は動作の過程が完了す
ることを表し、継続する動作を表す動詞の場合は「連用形+おわる」に近い意味となり、動詞
の意味によっては「ある状態に至った」という意味を表すとしている。一方、〈感慨〉のテシ
マウ形は文脈によって残念、後悔など様々な感慨を込めて使われるとしている。広告Bのコピ
ー「いつでも小悪魔できちゃう髪。」のテシマウ形は〈完了〉の用法の「ある状態に至った」
という意味を表すものと判断できるが、「驚き」などの〈感慨〉の意味合いも感じられる。
- 4) 2001年9月1日付、日本経済新聞「職員室」
- 5) 坂本・和田・東（2001）第2章を参考にした

【参考文献】

- 大越和孝ほか（2006）『保育内容「言葉」言葉とふれあい、言葉で育つ』東洋館出版社
- 荻野勝（2004）「選択学習『ことば探険』1992 実践から」『日本語学』278号、明治書院
- 酒井秀樹（1999）「選択国語『国語学講座』の実践から」『信大国語教育』8号、信州大学国語教育学会
- 坂本真佐哉・和田憲明・東豊（2001）『心理療法のテクニックのススメ』金子書房
- 野呂幾久子（2002）「医師のコミュニケーションとその教育」『日本語学』247号、明治書院
- 吉岡泰夫（2004）「コミュニケーションについて調べてみよう」『日本語学』278号、明治書院

（まつざき ふみちか・長野清泉女学院高等学校）